

【生薬名】 番椒、CAPSICI FRUCTUS、

【起源植物】 トウガラシ *Capsicum annuum*、シトウガラシ *C. frutescens*



【科名】 ナス科 *Solanaceae*

【別名】 唐辛子、辣椒 *ラッカ* (本草綱目拾遺)、高麗胡椒、南蛮胡椒

【薬用部分】 成熟果実

【主成分】 辛味成分が α -サリシ、ジヒド α -サリシ、加チノド、アデニン、ペクチン、コリンなど

【薬性】 気味は辛熱、帰経はに属す、毒無し

【効能】 ●皮膚刺激剤として5～6個を刻み煎じた液をガーゼなどに浸して患部に当てると神経痛、筋肉痛などにより

●刻んだものと全量の4倍のホワイトリカーに1月浸けて滓を濾したものがトウガラシチンキでこれを患部に塗ると同様に効く

●しもやけ、凍傷にはトウガラシを靴の中に入れて良い

●食欲増進、消化促進、唾液分泌亢進、1日0.2～0.3g分3服用

●水コップ一杯に唐辛子チンキ数滴たらしめて飲むのも健胃により

【出典】 ●宿食を消し、結気を解き、胃口をひらき、邪悪を辟け、腥氣諸毒を殺す (庖厨備用和名本草)

●能くほし、よくかわきたるとき、俄に末にして糊に和し、紙或綿布にひろげ、凡そ人身疼痛の處に貼るべし、能く愈ゆ。腹痛には腹に貼、頭痛には頭に貼、手足痛には其處につく、甚だ效あり。時期感冒には、三四の椎の間に貼りて、被をあつくきて汗を出すべし。(大和本草)

●薬用にはタカノツメ、ヤツブサ、フシミトウガラシが使われる

【備考】 ●中央アメリカ原産で1943年コロンブスによりスペインにもたらされて以来、急速に世界各地に広がり栽培されるようになった

●日本で栽培されるものはタカノツメ群とケイエン群である

●日本では一年草だが熱帯では多年草となる

【処方例】 ●七味唐辛子 (唐辛子、麻実、山椒、ケシ、菜種、胡麻、陳皮)